

市制 50 周年 Plus1 記念事業

大府市中学生サミット会議録



令和 3 年 8 月 25 日 (水)

大府市役所 議 場

大府市教育委員会

1 中学生代表出席者

大府中学校	安藤彩羽	大府中学校	上野橙和
大府中学校	中野友凜愛	大府中学校	和波心音
大府中学校	久野幸樹	大府中学校	平田有麗
大府西中学校	若狭康喜	大府西中学校	本多 葵
大府西中学校	小島圭人	大府西中学校	服部 うらら
大府西中学校	土江亮輔	大府西中学校	牧 絢花
大府北中学校	山下みらい	大府北中学校	野崎 広陸
大府北中学校	近藤大智	大府北中学校	鈴木愛理
大府北中学校	古宮亮太	大府北中学校	木村風駕
大府北中学校	名嶋日菜	大府南中学校	松本 響
大府南中学校	加藤健心	大府南中学校	谷口風翼
大府南中学校	竹内晴香	大府南中学校	山口友雅
大府南中学校	深谷茅那	大府南中学校	小林 廉

2 中学生代表欠席者

なし

3 市執行部出席者

市長	岡村秀人	副市長	山内健次
副市長	山田祥文	教育長	宮島年夫
企画政策部長	新美光良	総務部長	玉村雅幸
市民協働部長	信田光隆	福祉部長	猪飼健祐
健康未来部長	内藤尚美	健康未来部担当部長	阪野嘉代子
都市整備部長	伊藤宏和	都市整備部担当部長	松浦元彦
産業振興部長	寺島晴彦	水と緑の部長	近藤重基
会計管理者	久野信親	教育部長	鈴置繁雄
主席指導主事	二村圭史	消防長	上山治人
議会事務局長	相木直人		
秘書人事課長	白濱 久	企画広報課長	太田雅之
法務財政課長	長江敏文		

4 出席した事務局職員

学校教育課長	浅田岩男	指導主事	有賀美智留
指導主事	井上 東	学校総務係長	深谷雄紀
学校総務係主査	坂野晴仁		
議事係長	武陵真結子	議事係主任	野崎雄介

5 議事日程

日 程	発 言 者	件 名
第 1	和波 心音	ごみ削減とリサイクルの推進について
第 2	小林 廉	集中豪雨などの自然災害の減災について
第 3	古宮 亮太	SPORTS×SDGsについて 安心して安全なまちづくりについて
第 4	本多 葵	子ども医療費助成制度について
第 5	久野 幸樹	大府市を住み続けられるまちにするために何をすべきか、 何ができるかについて
第 6	名嶋 日菜	「紙資源を大切に。ごみ問題とペーパーレスの推進」について
第 7	竹内 晴香 小島 圭人	「大府市中学生サミット共同宣言」の発表

6 会議に附した事件

議事日程と同じである。

議長（加藤健心）

皆さん、おはようございます。

ただいまから「市制50周年Plus1記念事業大府市中学生サミット」を開会します。

私は、本日の中学生サミットの議長として前半の部のとりまとめをします、大府南中学校加藤健心です。皆さんのご協力により、スムーズに会議を進行させたいと思います。よろしくお願いします。

本日の議事日程につきましては、お手元に配布しました日程表により進めます。

議事を始める前に、本日の中学生サミットの目的について説明します。

私たちの暮らす大府市は、市制施行から50年が経過しましたが、次世代を担う私たちが、これから先の50年間も、大府市を魅力のある住み続けたいまちにするため、中学生が実践することをまとめた「大府市中学生サミット共同宣言」を作成しました。

この共同宣言を決定するため、本日は、全中学校の代表者が集まりました。

また、私たちは、共同宣言にSDGsの視点を取り入れるため、SDGsの17の目標について学習するとともに、大府市のまちづくりについても学習し、私たちが実践できることを考えました。

私たちが大府市のまちづくりについて学習し、これまでに気が付いたことを質問させていただいたため、本日は、市長さん始め、市の幹部職員の皆さんに、中学生サミットへの出席をお願いしました。市の方々からいただいた回答を確認したうえで、本日ここで共同宣言を決定したいと考えていますので、よろしくお願いします。



なお、本日は、大府市議会の議場を使用しておりますので、大府市議会の会議規則に習って進行をさせていただきます。発言をする時は、必ず発言の許可を議長に求めてください。よろしくお願いいたします。

それでは、はじめに、中学生サミットの開会にあたり、市長さんからご挨拶をいただきます。市長。

市長（岡村秀人）

おはようございます。

市制50周年Plus 1 記念事業中学生サミットの開会にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

中学生代表の皆さん、いつもの学校の教室と違う、議場の席に座っている今の心境はいかがですか。少し緊張していますか。私も中学生代表の皆さんが座っており、いつもと違う景色の議場に、少々緊張していますが、本日の議論の中から実りある成果が得られるように頑張りましょう。



傍聴席の保護者や学校関係者の皆さま、お暑い中傍聴にお越しいただきありがとうございます。本日に向けて、中学生の皆さんが、大変熱心にご準備いただきましたので、その成果を温かく見守っていただきたいと思います。

さて、本市は、昨年度に市制50周年を迎えました。その記念事業として、この中学生サミットを計画していましたが、残念ながら昨年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、中止としました。本日ここに、市制50周年Plus 1 記念事業として、無事に中学生サミットを開催できましたことを、心から嬉しく思います。

現在の大府市は、令和2年度から令和12年度を計画期間とする、第6次大府市総合計画に基づきまして、まちづくりを進めています。この計画では、今回皆さんが学んでいただいたSDGsによるまちづくりの考え方を取り入れておりますので、SDGsの目標達成に向けて、市が果たすことができる役割を留意しながら、施策に取り組んでいるところです。

本日のサミットでは、皆さんの質問に対して市の取組をお答えしたのち、最後に「サステイナブル健康都市おおぶ」を実現するための皆さんの決意を、「大府市中学生サミット共同宣言」という形で表明していただけると伺っています。このサミットが、今年の夏の貴重な経験、思い出となるとともに、皆さんと大府市の今後50年の新たな一歩となることを願いまして、開会の挨拶とさせていただきます。

本日は、よろしくお願いいたします。

議長（加藤健心）

ありがとうございました。

それでは議事に入りたいと思います。「市政への質問・提案」を行います。

中学生の代表者が市政への質問・提案を登壇して説明させていただきますので、市長さん始め市の方々は、答弁をお願いします。

なお、本日は、議場の両側に電子黒板を用意しました。質問・提案の説明とあわせて、私た

ちが学校で使用しているタブレットで作成したプレゼンテーション資料を提示します。あわせてご覧ください。

それでは、日程第1、大府中学校、和波心音さんの質問・提案をお願いします。大府中・和波心音さん。

中学生代表（大府中・和波心音）

大府中学校の和波心音です。

私は、大府市を住み続けられる街にするために、そして作る責任・使う責任に関して大府市のごみ削減とリサイクルの推進について質問をさせていただきます。

このテーマは、SDGs 17の目標の11番「住み続けられるまちづくりを」と12番「つくる責任つかう責任」に該当する内容です。

まず、私が調べた大府市の現状について述べたいと思います。第一に、第6次大府市総合計画の『くらしの健康』指標では、資源を除いた一人一日当たりのごみの排出量、資源化率、地域の清掃活動に取り組んでいる市民の割合が「市の定める目標値」には到達していません。例えば、ごみの排出量については、目標値が1人1日当たり590gであるのに対し、現在は1人1日当たり650gとなっています。

第二に、本市では、大府市以外の一市二町（豊明市・東浦町・阿久比町）と協力してごみ処理を行っているわけですが、ごみの削減をするためにも一人一人の意識改革、リサイクルの推進が必要だと考えます。

そこで、新たな物を購入する段階で、廃棄することも考え、本当に購入が必要なのか、代替品はないのかを検討し、不要となった場合にも可能な限りリサイクルを行い、ごみ削減につなげていくことが重要であると考えます。また、大府市として積極的に3R、リデュース・リユース・リサイクルを推進することで、処理に関わる財政負担の削減も必要だと考えます。

そこで、次の3点について、質問・提案をさせていただきます。

1点目は、ごみ排出量の削減のため、市内店舗と協力し、レジ袋をごみ収集に使えるごみ袋として利用できるようにする考えはないでしょうか。

現在の指定ごみ袋よりも袋が小さくなることで、そこに収まる量にしようとする意識につながり、また、指定ごみ袋を作るときのプラスチック削減にもつながります。

2点目は、不燃ごみや粗大ごみの再利用として、大府市と一市二町が協力し、定期的なフリーマーケットを開催してはどうでしょうか。



3点目は、不燃ごみとして処理される自転車についてですが、部品のリユースを市として推進してはどうでしょうか。ごみの削減だけではなく、経済的な負担軽減につながります。また部品交換・修理をシルバーさんの仕事とすることで、人材資源の活用にもつながると考えます。

以上3点について、よろしくお願い致します。

議長（加藤健心）

答弁をお願いします。市長。

市長（岡村秀人）

私からは、御質問の「ごみ削減とリサイクルの推進について」の基本的な考え方についてお答えいたします。

本市は、平成25年に全国に先駆け、バイオマス産業都市の指定を受けました。

「大府市バイオマス産業都市構想」に基づいて整備されたバイオガス発電施設においては、市内の小中学校及び保育園の給食残菜を資源としたバイオマス熱による発電のほか、施設の熱源としても活用されています。さらに、令和元年度からは、生ごみを燃料にリサイクルするため、家庭から出るごみを分別して収集するモデル事業を横根地区で実施し、ごみ減量の推進に取り組んでいます。

また、本市は、東京2020オリンピック競技大会及び東京2020パラリンピック競技大会の機運を盛り上げるため、至学館大学、民間企業と連携して、不用になった携帯電話やパソコンから「大府シティ健康マラソン大会」のメダルを製作するプロジェクトを立ち上げました。そして、オリンピックのメダルをリサイクルで製作する「都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト」に協力し、市内で金メダル9個分に相当する量の金属を回収するなど、循環型社会の構築に積極的に取り組んでいます。

今後も、豊かな自然環境をかけがえのない資源として未来に引き継ぐため、ごみの減量化及び資源化に取り組むなど、循環型社会づくりをはじめとした地球温暖化対策を着実に実施することで、環境負荷の少ない持続可能なまちを目指してまいりますので、よろしくお願いいたします。

議長（加藤健心）

市民協働部長。

市民協働部長（信田光隆）

私から御質問の「ごみ削減とリサイクルの推進について」の各項目についてお答えいたします。

始めに、1点目の「ごみ排出量の削減のため、市内店舗と協力し、レジ袋をごみ収集に使えるごみ袋として利用できるようにする考えはあるか」についてですが、国は、限りある石油資源を節約し、プラスチックの使用量を減らす脱プラスチックの取組を進めるため、昨年7月からスーパーなどの小売店でレジ袋の無料配布を原則として禁止し、レジ袋の有料化を始めました。そして、現在では、小売店でのレジ袋受け取り辞退率は7割を超えています。

本市は、環境に配慮し、本年4月から市指定ごみ袋を、植物由来のプラスチックを配合した、バイオマスプラスチック製にリニューアルしています。これにより、1年間で約43トンの石油由来のプラスチックを削減することができます。

多くの小売店では本市と同様に、バイオマスプラスチック製のレジ袋を使用していますが、まだ石油由来のプラスチックを使用した袋を使用している小売店もあります。環境問題を意識し配慮する人が増え、全ての小売店が環境に配慮したレジ袋を使うことになれば、実現できる

可能性もあると考えています。

レジ袋の活用だけではなく、普段からマイバッグを携帯して買い物をしたり、使い捨ての箸をもらわないようにするなど、ごみの発生を回避する「リフューズ」の取組も大切だと考えています。

次に、2点目の「不燃ごみや粗大ごみの再利用について、大府市と一市二町とが協力し、定期的なフリーマーケットを開催してはどうか」及び3点目の「不燃ごみとして処理される自転車について、部品のリユースを市として推進してはどうか」については、関連がございますので、一括してお答えいたします。

ごみ削減には、まず「ごみを減らす」リデュース、「ものを繰り返し使う」リユース、「使い終わったものを資源として再生利用する」リサイクルの3R（スリーアール）の取組を推進することが大切だと考えています。

リデュースの取組としては、食材を買うときは、必要な材料や分量を購入する、料理するときは、残さず食べられる量を作るなど、家庭でできるエコクッキングについてのチラシを作成し、市内スーパーの店頭で、食品ロス削減の啓発を行っています。

リユースの取組としては、皆さんに身近な例として、中学校や小学校のPTAが主体となり、不要となった制服や学用品をバザーで販売する取組が行われています。

リサイクルの取組としては、各地域や公共資源ステーションでの資源回収のほか、全国初の取組として宅配便を活用した使用済小型家電の回収、最新式の設備を導入した東部知多クリーンセンター「エコリ」で、ごみ処理の過程で生成される金属の「メタル」や、道路の路盤材として再利用できる「スラグ」の回収など、資源化の取組を進めています。

フリーマーケットの開催については、スケールメリットを生かすことで、出展者や参加者が集まりやすく、効率的かつ効果的ですので、2市2町及び東部知多衛生組合と情報交換を行う中で、提案していきたいと考えています。

また、自転車部品のリユースについては、非常に良いアイデアだと思います。ただ、リユース部品により組み立てられた自転車の安全性が課題となりますので、クリアしていかなければならないと考えていますので、よろしく願いいたします。

議長（加藤健心）

答弁が終わりました。

答弁に対する意見および感想はありませんか。大府中・安藤彩羽さん。

中学生代表（大府中・安藤彩羽）

丁寧な答弁ありがとうございました。

使用済小型家電の回収BOXが市役所などに設置されていることは知っていましたが、宅配便を活用した回収については初めて知ることができ、市民がよりリサイクルしやすいような取組がされていることを実感しました。大府市にはまだ石油由来のプラスチックを用いた袋を使用している小売店もあるということですので、環境問題に自分に関係ないという意識を捨て、これからも一人一人が環境を意識して生活することがごみの削減につながっていくと思いました。

買い物に出かけたとき、使い捨て商品ではなく再利用できるものを選んだり、過剰な包装を

断ったりすることは私たちも行わなければならないことだと感じました。

東京オリンピック・パラリンピックのメダルを、金属を再利用して作る取組を行い、そのような動きが全国各地で広がるなど、ごみ削減やリサイクルの面での大府市が取組をいただいているということなので、自転車部品のリユースについてもこれから検討していただき、SDGsに基づく環境に配慮した社会づくりを実現していただきたいと思いますので、よろしくをお願いします。

以上です。

議長（加藤健心）

以上で、日程第1の大府中学校の代表者からの質問・提案を終了します。

続いて、日程第2、大府南中学校、小林廉さんの質問・提案をお願いします。大府南・小林廉さん。

中学生代表（大府南・小林 廉）

私は、「集中豪雨などの自然災害の減災」について質問をします。

このテーマは、SDGs 17の目標の13番、「気候変動に具体的な対策を」に該当する内容です。

みなさん、昨年の夏を思い出してみてください。コロナ禍初めての夏で、コロナウイルス感染予防と暑さのために、自宅で過ごす時間が多かったことと思います。そんな夏の始まりにコロナウイルスとともに、大きなニュースになったことがありました。熊本豪雨です。熊本豪雨では九州地方を中心に記録的な大雨が続き、死者・行方不明者は80名を超えました。私はテレビでその様子を目の当たりにし、衝撃を受けたのを今でも覚えています。悲しいことに、今

年も、熱海で同様な災害が起こりました。このような豪雨災害は「何度も繰り返されてはならない」と強く思います。

そこで、自然災害の減災について、大府市ではどのくらい進んでいるのか、現状を調べてみました。その結果、大府市の取組について、災害時の被害を減らす対策は進んでいると感じましたが、災害の原因を減らす取組は少ないように感じました。

そこで、次の3点について、質問・提案をさせていただきます。

1点目は、豪雨災害の原因となる地球温暖化につながるCO₂排出量の削減を目指すべきだと考えます。CO₂排出量の少ない太陽光発電を進めるため、市内の小中学校の屋上や、これから新築する建物などに太陽光パネルを設置していくのはどうでしょうか。太陽光パネル一つひとつは小さくても、きっと大府市としての大きな力になると思います。

2点目は、ここ大府市は約20年前、東海豪雨により、多くの地域で浸水被害を受けました。それから20年以上経過した現在、再発させないための対策は行われているのでしょうか。東海豪雨を知らない世代が増えている今、経験を次世代へつなぐことも大切だと考えます。

3点目は、私たち中学生も学校や地域に植樹するなどして力になることができると思うので、大府市緑の基本計画を全市民で推進することが大切だと考えます。甚大な災害をもたらす地球温暖化に対する、太陽光発電以外の今後の具体的な対策はあるのでしょうか。

サステナブル健康都市おおぶは、目標達成のため、市民全員が同じ方向を向いて歩み続けた先にあるものだと思います。ぜひご回答いただければと思います。

以上で、私からの提案と質問を終わります。

議長（加藤健心）

答弁をお願いします。市長。

市長（岡村秀人）

私からは、御質問の「集中豪雨などの自然災害の減災について」に関連する、「温室効果ガス排出量ゼロを目標とした『ゼロカーボンシティ』の取組について」の基本的な考え方についてお答えいたします。

近年の世界的な猛暑や豪雨など、地球温暖化が原因とみられる異常気象による災害が増加しており、人々の生命や財産、社会インフラ、自然や生態系を守るための地球温暖化対策は必要不可欠となっています。

本市の環境分野における方向性を定めた「第3次大府市環境基本計画」では、「一人ひとりが自分のこととして環境を意識し、学び、気づき、そして行動する市民を育む」と基本理念に定めています。そして、環境将来都市像である「人と自然が共生する みらい輝く健康都市」を実現するため、2050年の温室効果ガスの実質排出量ゼロを目指す「ゼロカーボンシティ」を、令和3年1月に表明いたしました。

地球規模の環境問題は、身近な環境の変化が積み重った結果であり、学校、家庭、地域、事業所などの様々な活動が影響しています。環境問題を解決するには、自分自身の行動が関係することだと一人ひとりが理解して、環境を守るための行動を日常的に行うことが重要です。

皆さんも、身近な環境から地球規模の環境を意識し、カーボンニュートラルな社会づくりに積極的に取り組んでもらいたいと思いますので、よろしくお願いたします。



議長（加藤健心）

市民協働部長。

市民協働部長（信田光隆）

私から御質問の「集中豪雨などの自然災害の減災について」の1点目及び3点目についてお答えいたします。

始めに、1点目の「CO₂排出量の少ない太陽光発電を進めるため、市内の小中学校の屋上や、これから新築する建物などに太陽光パネルを設置していくのはどうか」についてですが、本年度から、ゼロカーボンシティの実現に向けた取組として、民間事業者と連携し、市内の小中学校及び公共施設への太陽光発電設備の導入をはじめとした再生可能エネルギー設備の導入を進めています。また、公共施設の再生可能エネルギー設備の導入モデルを市内事業者などに

発信して、市内全域へのさらなる波及効果を目指しています。

このほかにも、既に取り組を進めている各家庭向けの「大府市住宅用地球温暖化対策設備導入費補助制度」においては、市民のみなさんが電気を自ら創る「創エネルギー」、エネルギーのムダを省いて効率的に使う「省エネルギー」、電気を蓄える「蓄エネルギー」を積極的に支援することで、平時の温室効果ガスの排出抑制に加えて、災害時のエネルギー供給が維持できる持続可能な脱炭素社会づくりを推進しています。

次に、3点目の「甚大な災害をもたらす地球温暖化に対する、太陽光発電以外の今後の具体的な対策はあるか」についてですが、具体的な対策として、「第3次大府市環境基本計画」の基本施策である「脱炭素社会づくり」としては、専門家による省エネルギー講座を開催して省エネルギー・省資源を推進するとともに、環境にやさしい電気自動車などの導入を推進します。

「循環型社会づくり」としては、ごみの減量化及び脱プラスチックを促進することで、循環型社会の形成及び環境に配慮した消費行動・事業活動を推進します。

「自然共生社会づくり」としては、水と緑の保全などの取組を推進するため、アサギマダラ飛来プロジェクトのフジバカマの植栽を行うとともに、各家庭での緑のカーテンの普及にも取り組んでいます。

今後もこの3つの基本施策を柱として、市民の皆さん・事業者・市が連携し、地球温暖化対策を推進してまいりますので、よろしくお願いいたします。

議長（加藤健心）

水と緑の部長。

水と緑の部長（近藤重基）

私から御質問の「集中豪雨などの自然災害の減災について」の2点目「東海豪雨により浸水被害を受けたが、20年以上経過した現在、再発させないための対策は行われているか」についてお答えいたします。

本市は、平成12年9月11日から翌12日にかけて、24時間で約609mmという記録的な豪雨が観測された東海豪雨において、市内では河川氾濫や住宅の浸水、JR東海道本線の運休など、甚大な被害が発生しました。

東海豪雨後には、愛知県などと協力し、河川改修や橋の架け替え、排水機場の建て替えなどを計画的に実施しています。

また、以前から、雨水が河川や水路に急激に流出しないように、雨水貯留浸透施設整備などの流出抑制対策を、周辺市町と協力して取り組んでいましたが、東海豪雨後には、「大府市総合排水計画」を策定し、本市独自の流出抑制対策にも取り組んできました。東海豪雨並みの降雨が発生した場合でも、市内の浸水被害を最小限に抑えることができるよう、田畑やため池の保全を始め、公園、学校のグラウンドなどの公共施設を活用して雨水貯留浸透施設を整備するほか、市内の皆様にも家庭に雨水貯留タンクを設置するなど、ご協力をいただいています。また、新たな住宅開発や工場立地時において雨水貯留施設設置を義務化するなど、多くの流出抑制対策を行っています。

さらに、市公式ウェブサイトでは、市内7か所の河川の水位を確認できる「大府市河川水位情報」を発信してきましたが、今月16日からは、市内3か所に設置された河川監視カメラの画

像を公開し、河川の状況を直接確認できるようにしました。また、市内の浸水想定区域、避難所及び避難方向を示した洪水ハザードマップを作成し、大府市防災ガイドブックとして全戸配布する等、ハード対策とソフト対策の両面から治水対策に取り組んできました。

東海豪雨の発生から20年が経過していますが、全国各地で毎年集中豪雨が頻発しています。これまで実施してきた施設整備や河川監視情報を活用し、防災、減災に努めるとともに、安心安全なまちづくりを目指し、行政だけでなく市民の皆様とともに引き続き治水対策に取り組んでいきますので、よろしくお願いいたします。

議長（加藤健心）

答弁が終わりました。

答弁に対する意見および感想はありませんか。大府南・深谷茅那さん。

中学生代表（大府南・深谷茅那）

丁寧な答弁ありがとうございました。

公共施設への太陽光パネルの設置の計画だけでなく、各家庭へ向けた「設備導入費補助制度」の取り組みも行われていることは非常にありがたく思います。市民も関わって、地球温暖化対策ができるのはとても嬉しいです。

先月の熱海での豪雨災害に加え、今月も、全国で記録的な大雨が続き、大きな被害を受けました。年々、豪雨災害の発生が増えているように感じます。これを防ぐためにも、「第3次大府市環境基本計画」にあるように、一人ひとりが自分に関係することとして環境を意識することが大切だと改めて思いました。

また、ウェブサイトで「大府市河川水位情報」や河川監視カメラの画像が公開されている取組について、はじめて知ることができました。災害時に河川の様子を確認しに外に出て、命を落とされる方がいるとニュースなどで報じられることも多いので、自宅から河川の状況が確認できるのは、非常にありがたいです。これからもぜひ、続けていただきたいと思います。

環境への意識を変えることや、日頃の防災の取り組みなどに関しては私たち中学生にもできることだと感じましたので、学校へ戻り、今回頂いた答弁も踏まえて全校生徒に呼びかけたいと思います。

以上です。

議長（加藤健心）

以上で、日程第2の大府南中学校の代表者からの質問・提案を終了します。

続いて、日程第3、大府北中学校、古宮亮太さんの質問・提案をお願いします。大府北・古宮亮太さん。

中学生代表（大府北・古宮亮太）

大府北中学校の古宮亮太です。

私は、1番目「SPORTS×（かける）SDGs」について、2番目「安心で安全なまちづくり」について質問をします。

このテーマは、SDGs 17の目標の3番「すべての人に健康と福祉を」、15番「陸の豊かさ

も守ろう」に該当する内容です。

大府市では「健康都市おおぶ」を掲げ、市民の健康を考えた様々な活動が行われていて、とても素晴らしいと思います。その一方、私の通学路では、道端にタバコの吸い殻やペットボトルなどのプラスチックごみが落ちているのをよく見かけます。街路樹や公園に緑が多い大府市の環境へ悪影響が出ていないかを心配をしています。

そこでごみが落ちているという問題に対し、次のような活動を行うことができたかどうかと思います。

「健康都市おおぶ」として、市民の健康だけでなく環境も守っていくために、「プロギング」を行いたいと思います。プロギングとはスウェーデン発祥のSDGsスポーツで、ごみ拾いの「P l o c k a U p p」（プロッカアップ）と「J O G G I N G」（ジョギング）を合わせたもので、世界100か国以上で親しまれています。内容はジョギングをしながら町のごみを拾っていくといった取組になります。愛知県では大須や熱田など、いずれも名古屋市を中心に行われています。大府市がプロギングを行うことで、環境を良くすることができ、市民が健康で暮らせるまちになるのではないかと考えます。

そこで、次の2点について、質問・提案をさせていただきます。

1点目は、健康と環境に着目した取組はどのくらい行われていますか。

そして、2点目は、新しいイベントとしてプロギングを取り入れることは可能でしょうか。よろしくをお願いします。

次に2番目の「安心で安全なまちづくり」についてです。

このテーマは、SDGs 17の目標の3番「すべての人に健康と福祉を」、11番「住み続けられるまちづくりを」に該当する内容です。

愛知県では30年以内に大地震が起こると言われています。大府市の公式ウェブサイトによると、私たちの大府市でも震度6強程度の揺れがくる予想です。しかし、実際に地震が起きたとき、私を含め市民が適切な行動をとることや世代を超えた繋がりをもった避難をすることができるでしょうか。私は不安を感じます。

まず、「ハザードマップ」についてお話をします。

大府市にはハザードマップがあります。大府市の公式ウェブサイトにも掲載されていますし、私の家にも配られています。しかし、大府市全体がのっているため、細かく見にくいと感じます。近くの市では、地区ごとのハザードマップが作成されていると聞いています。ハザードマップを学区ごとに分けてはどうでしょうか。見やすくすることで防災意識が高まると考えます。

次に、「避難訓練」についてお話をします。

私たち小中学校では、毎年、地震を想定した避難訓練を行っています。「大府市でも、学校と同じように避難訓練をすればいいのに」と思っていました。大府市の公式ウェブサイトを見ると、大府市でも、各地区が順番に担当して「地域総ぐるみ防災訓練」が行われていることが分かりました。

そこで、3点について質問させていただきます。

1点目は、大府市では、過去にどれくらいどのような避難訓練を行いましたか。また、これからの避難訓練を行う予定はありますか。

2点目は、実際に災害が起きたとき、私たち中学生や若者は何を期待されていますか。

3点目は、先ほどの「学区ごとにハザードマップを作る」ということに対してのお考えをお聞かせください。

以上で質問を終わります。よろしくお願いいたします。

議長（加藤健心）

答弁をお願いします。市長。

市長（岡村秀人）

私からは、御質問の2番目の「安心で安全なまちづくりについて」の2点目の「実際に災害が起きたとき、私たち中学生や若者は何を期待されているか」について、お答えいたします。

国の中央防災会議においては、南海トラフ地震が発生すると、静岡県から宮崎県にかけて震度6弱から震度7の非常に強い地震になるとされており、広い範囲で甚大な被害が想定されています。本市にも大きな被害が想定されており、被災して自宅に住めなくなった方や帰宅困難者など、多くの方が避難所での生活を強いられるものと考えております。

避難所では、運営マニュアルに基づいて、避難者の皆さんが一定のルールを定めて一緒に生活することになります。日頃から、介助等の支援を受けている方が避難所生活を送る場合には、普段の自宅での生活環境と異なることから、多くの支援が必要となり、若い世代の方の協力が、とても大切だと考えております。

本市では、若い世代からの防災教育が重要であると考えており、防災・減災の意識を高めるため、小学生向けには、「ぼうさいスクール」や「防災体験ラリー」を開催しております。また、中学生向けには、被災地での多くの活動経験のあるボランティアの代表者を招いて「防災講演会」を開催し、自分の命は自分で守る「自助」、災害時には皆が助け合う「共助」について学習していただき、「助けられる側から助ける側へ」意識の転換を図ることで、地域の防災力が向上する取組に努めています。

今後も、中学生の皆さんのような若い方々が、地域総ぐるみ防災訓練や地域が主催する防災訓練に積極的に参加していただき、災害時には地域を守る一員として活躍していただく事を期待しております。どうかよろしくお願いいたします。

議長（加藤健心）

健康未来部担当部長。

健康未来部担当部長（阪野嘉代子）

私から御質問の1番目「SPORTS×（かける）SDGsについて」の各項目についてお答えいたします。

始めに、1点目の「健康と環境に着目した取組はどのくらい行われているか」についてですが、

本市は「健康都市」として、平成18年の健康都市連合への加盟を機に、全ての公共施設の屋内禁煙と小中学校などの敷地内禁煙を進めてきました。また、議員提案の「『健康都市おおぶ』みんなで美しいまちをつくる条例」を制定し、JR大府駅及び共和駅周辺に路上禁煙地区を指定するなど、早くからたばこによる健康被害を防ぐ取組を積極的に進めています。併せて、

議員や市民の皆さんとの協働による禁煙キャンペーンや、市内事業所と連携した敷地内禁煙を実施しています。

平成30年7月に公布された「健康増進法の一部を改正する法律」では、「望まない受動喫煙」をなくすという基本的な考え方が示されました。大府市では、令和元年7月の改正法一部施行に先立ち、令和元年4月から、市役所庁舎をはじめ、全ての児童老人福祉センターなどを敷地内禁煙としました。また、令和2年10月には、大府市都市公園条例を一部改正し、子どもたちが日常的に利用する都市公園内の禁煙を罰則付きで規定し、安心して公園を利用できる環境を整えました。本年1月には、日経リサーチが公表した「全国市区・SDGs先進度調査」の社会分野において、受動喫煙防止対策や高い人口増加率などが評価され、人口5万人以上10万人未満の自治体で1位を獲得しています。

次に、2点目の「新しいイベントとしてプロギングを取り入れることは可能か」についてですが、

本市は、市民の皆さんの健康づくりの取組として、鞍流瀬川や石ヶ瀬川などの河川緑道、川池や新池などの池を散策できる親水空間を整備し、豊かな緑や水辺に親しみながら、身近な場所でウォーキングができる環境づくりを進めています。また、石ヶ瀬川や鞍流瀬川周辺を中心に、地域の団体が主体となって「クリーン・アップ・ザ・ワールドin大府」を始めとする環境美化活動を実施しています。

御質問にありました「プロギング」は、ジョギングによる心身の健康増進と、清掃活動によるまちの環境美化を同時に図ることができるユニークな取組であると認識しています。また、特別な道具がなく、誰でも簡単に始めることができることも、この取組の特長であると考えており、本市としても情報発信等を進めているところです。

健康づくりも環境保全も、市民一人ひとりの主体的かつ継続的な取組が重要です。「プロギング」のような取組を中学生の皆さんからも発信、チャレンジしていただけることは、SDGsの達成に向けた大きな力となるものと認識していますので、よろしく願いいたします。

議長（加藤健心）

市民協働部長。

市民協働部長（信田光隆）

私から御質問の2番目の「安心で安全なまちづくりについて」の1点目及び3点目についてお答えいたします。

始めに、1点目の「大府市では、過去にどれくらいどのような避難訓練を行ったか。また、これからも避難訓練を行う予定はあるか」についてですが、本市が主催する「地域総ぐるみ防災訓練」は、昭和52年の森岡町防災会との訓練を始めとして、自治区と呼ばれる10の自治会組織を対象にして順番に、毎年、実施してきています。この総合防災訓練では、南海トラフ地震の発生を想定し、警察車両の先導により、市民の皆さんが身の安全を確保して、自宅から避難所に避難するとともに、避難所となる体育館において、シェイクアウト訓練、炊き出し訓練、応急仮設トイレ設営訓練、間仕切り設置訓練などを実施しています。

このほかにも、それぞれの自治区において、防災に関する様々な訓練を実施しています。訓練の実施にあたっては、防災担当職員を派遣して、訓練の支援に加えて、防災講座を開催する

ことにより地域の防災力の向上に努めています。

今後も、「地域総ぐるみ防災訓練」を中心に、自治区と連携して様々な訓練を実施するとともに、昨年9月1日に開館したDAIWA防災学習センターを活用した防災訓練・避難訓練などを企画し、多くの市民の方への防災意識の向上を目指していきます。

次に、3点目の「学区ごとにハザードマップを作る考えはあるか」についてですが、本市の災害対策本部の組織は、10ある自治区を災害対策支部として位置付け、災害発生時には、その自治区ごとにある公民館及び石ヶ瀬会館を、災害対策支部の拠点として活用しています。

本市で作成した「大府市防災ガイドブック」は、その災害対策支部の拠点ごとのエリアを単位として、東海豪雨発生時に浸水した場所や急傾斜地崩壊危険箇所、土砂災害の危険箇所がひと目で分かるよう、色や記号等で詳しく表しています。

「大府市防災ガイドブック」以外でも、多くの自治区においては、自治区ごとに地域の皆さんが実際に自分の地域を歩いて作成したハザードマップを各家庭に配布しています。

学区ごとのハザードマップについては、学校周辺に詳しい小学生や中学生の児童・生徒の皆さんがハザードマップを自分の手で作成することが、非常に効果があり、防災意識も高まることだと思います。その時には、是非、協力させていただきますので、よろしくお願いいたします。

議長（加藤健心）

答弁が終わりました。

答弁に対する意見および感想はありませんか。大府北・山下みらいさん。

中学生代表（大府北・山下みらい）

分かりやすい答弁ありがとうございました。

まずSPORTS×（かける）SDGsについては大府市でも環境に対する取り組みがたくさん行われていると改めて感じました。これらの取り組みは非常にありがたいものだと思います。また、受動喫煙をなくすために、私たち市民が多く利用する公園内での喫煙に、罰則を設けていることを知ることができました。

そしてプロギングについては私たち中学生でもできる取り組みだと感じたので、学校でも実践していきたいです。そして、ぜひ大府市としても、ぜひやっていただきたいと思います。

次に安全で安心なまちづくりの取り組みについて、自治区のハザードマップについて初めて知りました。私たちも学校内で広めていきたいと思います。大府市として市民全員に知ってもらえるように広めていけたらいいのかなと感じました。そして、学区のハザードマップを作る際にはご協力をお願いしたいと思います。大府市の防災に対する取り組みについては初めて知ることがたくさんありました。私たち中学生も、もっと防災に関心を持つように、学校内で情報を発信していこうと思います。

最後に実際に災害が起こった時には私たちの若い世代の力がとても大事になってくるこ



とを改めて感じました。地域の一員として活躍できるように積極的に地域行事に参加していきたいと思います。

以上です。

議長（加藤健心）

以上で、日程第3の大府北中学校の代表者からの質問・提案を終了します。

続いて、日程第4、大府西中学校、本多葵さんの質問・提案をお願いします。大府西・本田葵さん。

中学生代表（大府西・本田 葵）

大府西中学校の本多葵です。

私は、「子ども医療費助成制度」について質問します。

このテーマは、SDGs 17の目標の3番「すべての人に健康と福祉を」に該当する内容です。

今、私は子ども医療証を利用して病院を受診していて、体調が悪くなりかけた時、悪化する前にすぐ受診できるという安心感があります。しかし、もうすぐ中学校を卒業するので、子ども医療証を利用することができなくなります。

このことがきっかけで子ども医療費助成制度について調べてみました。すると、愛知県の他の市町村では18歳の年度末まで拡大する動きが出てきていることを知りました。他市町の公式ウェブサイト調べてみると、例えば、名古屋市・東海市・東郷町・南知多町・半田市などがそれぞれ異なる条件ではありますが、拡大したり今後の計画として発表したりしています。

子ども医療費助成制度を一部拡大している東海市の歯科医師に、インタビューしてみました。成長期の子どもは半年に1回ほど定期健診を受けることが望ましいそうです。しかし、子ども医療証なしで歯の掃除や検診を受けたりすると、自己負担が3割の場合、3,000円ほどかかるそうです。子どもが多い家庭にとっては大きな負担になり、今までのようには受診しにくくなるかもしれないと感じました。また、インタビューの中で、子どもの頃から定期検診を受ける習慣がついている人は、大人になってもその習慣が続くとも聞きました。私は、常にベストのコンディションで前向きに生活していくためにも、その習慣を身につけるといいと思いました。

そこで、次の2点について、質問・提案をさせていただきます。

1点目は、大府市として、子ども医療費助成制度の窓口負担無料の対象年齢を拡大していく考えがあるでしょうか。また、あるとしたら具体的にはどのような方法や時期なのかお伺いしたいです。

2点目は、子ども医療費助成制度以外の医療費助成制度や大府市としての健康に対する取組があれば教えてください。

大府市で暮らしていて、市民が健康でいきいきと過ごすために必要なことが速やかに決定され、実行していただけていると感じています。

子ども医療費助成制度の対象年齢を拡大することで、生涯にわたって自分で健康を保とうとする力を育てることができると思います。また、子育てに手厚ければ、大府市は若い世代にとってますます魅力的になり、地域に活気があふれ、経済の安定にもつながると思います。

以上のことが子ども医療費助成制度の対象年齢を拡大するメリットだと考えます。ご検討をよろしくお願いします。

議長（加藤健心）

答弁をお願いします。市長。

市長（岡村秀人）

私からは、御質問の「子ども医療費助成制度について」の1点目「子ども医療費助成制度の窓口負担無料の対象年齢を拡大していく考えがあるか。また、あるとしたら具体的にはどのような方法や時期になるか」についてお答えいたします。

私は、平成28年4月に大府市長に就任して以来、一貫して「子どもを産み育てやすいまちづくり」に向けた子育て支援の充実や、教育・保育の環境整備に取り組んでまいりました。

ご質問にございます子ども医療費助成制度につきましては、現在、本市では、中学校卒業までの子どもを対象に、通院・入院ともに全て無料として実施しております。平成19年10月に、県内でも本市がいち早く対象年齢を拡大したことにより、先駆的な取組としてマスコミ等にも取り上げられ、その後、他の自治体にも波及しました。

それから10年以上が経過した現在では、すでに多くの自治体が本市と同様、中学卒業までを対象にしているほか、一部の自治体では、さらに対象年齢を拡大しているところもあると伺っています。

私は、選挙公約マニフェストにおきましても「高校生までの医療費助成の検討」を掲げており、様々な角度から検討を進めているところであります。制度の拡充に当たっては、当然、市の財政負担が増えることが予想されます。新型コロナウイルス感染症の影響により、非常に財政状況が厳しい中ですが、今まさに困難を強いられている多くの子育て世帯の皆様には希望を与えるためにも、本市が「子育てしやすいまち」のトップランナーであり続けるためにも、そして何よりも、本市の宝である全ての子どもたちのためにも、高校生までの子ども医療費助成制度の対象年齢拡大について、窓口負担の助成方法、一部負担の有無、財政負担の状況など、課題はございますけれど、実施への課題を精査し進めていきたいと考えています。

実施時期につきましては、令和4年度からの、来年度中の開始を目指していきたいと考えていますので、よろしく願いいたします。

議長（加藤健心）

福祉部長。

福祉部長（猪飼健祐）

私から御質問の「子ども医療費助成制度について」の2点目「子ども医療費助成制度以外の医療費助成制度や大府市としての健康に対する取組があれば教えていただきたい」のうち、子ども医療費助成制度以外の医療費助成制度についてお答えいたします。

第6次大府市総合計画では、「安心を支える医療制度の充実」を掲げており、子ども医療費助成制度以外にも障がい者医療、母子家庭等医療、後期高齢者福祉医療の各医療費助成制度を設けています。

障がい者医療費助成制度は、例えば、身体障害者手帳や精神障害者保健福祉手帳の1級から3級を持っている方や、療育手帳のA又はB判定の方等が対象で、6月末現在の受給者数は

2,434人です。

母子家庭等医療費助成制度は離婚や死別等でひとり親家庭となった方などが対象で、同じく6月末現在の受給者数は1,133人です。

また、75歳以上の後期高齢者医療制度に加入している方のうち、障がいのある方や寝たきりの方等が受給できる後期高齢者福祉医療費助成制度については、6月末現在の受給者数は1,156人です。

いずれの助成制度も、保険診療の自己負担分を助成し、安心して医療を受けていただける環境を整えていますので、よろしくお願いいたします。

議長（加藤健心）

健康未来部担当部長。

健康未来部担当部長（阪野嘉代子）

私から御質問の「子ども医療費助成制度について」の2点目のうち、「大府市としての健康に対する取組があれば教えていただきたい」についてお答えします。

本市は、令和2年3月に、「第3次大府市健康増進計画」を包含した「『健康都市おおぶ』みんなの健康づくり推進プラン」を策定し、計画の推進に取り組んでいます。

市民の健康増進に取り組む「第3次大府市健康増進計画」では、「栄養・食生活」「身体活動・運動」「休養・こころの健康」「疾病の予防と管理」「歯・口腔」「たばこ・アルコール」の6つの分野において、ライフステージに応じた施策を展開しています。

乳幼児期から学齢期にかけては、「健康的な生活習慣の確立」を重点目標に掲げ、大府市幼保児小中連携教育の指針「きらきら」に沿って皆さんの「早寝早起き朝ごはん」を推進しています。また、保育園や児童老人福祉センターなどでは、体力向上プロジェクトを実施していて、本年度からは小学一年生にも拡大しています。

特に、自校調理方式によるバランスの取れた給食の提供、保育園、小中学校でのフッ化物洗口など、子どもたちの健康を守るために長年に渡り実施している、本市が誇る取組です。

青年期から壮年期にかけては「生活習慣病対策」を重点目標に掲げ、健診・がん検診の体制整備や生活習慣病の重症化予防事業、市内事業所の健康経営の推進などに取り組んでいます。

高齢期においては、加齢による心身の機能の衰えである「フレイル」対策を重点目標とし、健診や専門職の訪問、通いの場の提供など、介護予防のための事業を総合的に展開しています。本市としましては、それぞれの年代に合わせ、生涯を通じての健康づくりを支援しています。

今後も健康都市として、全ての市民の皆さんが、心身ともに健やかであることを目指して取り組んでいきますので、よろしくお願いいたします。



議長（加藤健心）

答弁が終わりました。

答弁に対する意見および感想はありませんか。大府西・若狭康喜さん。

中学生代表（大府西・若狭康喜）

具体的で丁寧な答弁ありがとうございました。

大府市では子供から青年期、高齢期にかけて幅広い年代に合わせて健康支援されていることを改めて理解できました。

僕がここまで大きくなったのも、栄養のバランスがとれたおいしい給食をおかわりもできるくらい、いっぱい用意していただいたおかげです。改めて感謝いたします。

子ども医療費助成制度の対象年齢拡大がここまで進んでいることに正直驚き、さすが健康都市大府市だなと感じました。

医療費の個人負担がないのが当たり前だと思っていましたが、この制度が大府市から始まったことを知り、誇らしく思います。そして、令和4年度中には、高校卒業まで拡大していただける計画を知りました。これで、安心して高校でも部活動に取り組むことができると思いました。

また、答弁の中の「本市の宝であるすべての子供達のために」という言葉に感動しました。自分たちにできることはこれからずっと健康でいることだと思います。僕は運動が大好きなので、何歳になっても思いっきり体を動かすことができるように、これからも鍛えていきます。

以上です。

議長（加藤健心）

以上で、日程第4の大府西の代表者からの質問・提案を終了します。

日程表に従い、ここで、休憩をとりたいと思います。ご異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

異議なしと認めます。休憩します。再開は11時とします。

休憩 午前10時47分

再開 午前11時00分

議長（牧 絢花）

ここで議長を交代します。

後半の部のとりまとめをします、大府西中学校の牧絢花です。

みなさんのご協力により、会議をスムーズに進行させたいと思います。よろしく申し上げます。

それでは、休憩前に引き続き、市政への質問・提案を行います。

日程第5、大府中学校、久野幸樹さんの質問・提案をお願いします。大府中・久野幸樹さん。

中学生代表（大府中・久野幸樹）

大府中学校の久野幸樹です。

私は、大府市を住み続けられるまちにするために何をすべきか、何ができるかについてお伺い致します。このテーマは、SDGs 17の目標の11番「住み続けられるまちづくりを」に該当する内容です。

まず、私が調べた大府市の現状について説明します。

第一に、夜間の照明や道路の整備についてですが、第6次大府市総合計画の『まちの健康』指標によると、夜道がとても暗い場所があったり、計画はされているもののまだ整備されていない道があったりし、都市計画道路の整備率は約68%となっていました。また、高齢化が進む昨今において、身近にあると便利な商業施設が少ないという声も私自身耳にすることがあります。

第二に、家庭的な問題については、家族の負担分担・子育ての支援、例えば「子育てに関して相談する人・機関が充実しているか」という点において不満をもつ方が一定数いるように思います。今は住みやすい街であったとしても、現状維持の姿勢では少しずつ衰退していくことが考えられ、未来のこと、とりわけ「少子高齢化・人口減少社会」に備え、今から取組の推進をしていくことが大切だと考えます。

そこで、その市民の声が直接市役所に届きやすくする仕組みが必要だと思います。大府市のICT環境を生かし、大府市の公式ウェブサイトを活用し、街に対する市民の提案や要望が届きやすいようにすることが大切だと思います。

そこで、次の3点について、質問・提案をさせていただきます。

1点目は、道路整備や、電灯の設置要望などができる場をつくることは検討していただけるでしょうか。

2点目は、高齢化が進む昨今において、高齢者でも気軽に入店でき、最近話題になっているお店や身近にあると便利な商業施設の誘致はできないでしょうか。

3点目は、大府市の最近更新されていない街のPR動画を作るなど、大府市の公式ウェブサイトをより分かりやすく見やすいものに改善していくことは可能でしょうか。

このような工夫をすることで、市政がより近い存在となり、市民と一体感のある大府市になっていくと思います。

そのために自分ができることは、地域活動へ積極的に参加することに代表されるように、身近な人との関わりを大切にすることだと考えます。

以上、私からの質問・提案になります。よろしく申し上げます。



議長（牧 絢花）

答弁をお願いします。市長。

市長（岡村秀人）

私からは、御質問の「大府市を住み続けられるまちにするために何をすべきか、何ができるかについて」の基本的な考え方について、お答えいたします。

本市では、市制を施行した昭和45年から、一貫して「『健康都市』の実現」をまちづくりの基本的なテーマに掲げてきました。「健康都市」とは、個人の心身の健康に加えて、皆さんが暮らすまちそのものが将来にわたって健全であること、つまり、市民がお互いに助け合いながら豊かに暮らし、安全で快適な都市基盤が整い、自然環境と経済活動が調和する、そんなまちのことを言います。これはまさに、SDGsの目指す社会そのものであり、この大府市は、今から半世紀も前から、サステナブルなまちづくりに取り組んできたと言えます。

中学生の皆さんが今の大府市を「住みやすいまち」と感じてくれているということは、本市が誕生してからの50年間、まちづくりに取り組んできた市民の皆様が、子や孫のことを想い、いつまでも住み続けられるまちにするため、自分たちがなすべきこと、できることを実践してこられたからにほかなりません。

今、新型コロナウイルス感染症を始め、少子高齢化や大規模災害、気候変動、環境問題など、まちの持続可能性を脅かす様々な課題があります。市制50周年を迎えた大府市が、次の50年も住みやすいまちとして続くためには、皆さんを含め、今を生きる私たち全員が、未来のためにできることを考え、そしてそれを形にしていかなければなりません。

私は、このまちで暮らし、学び、大いに成長された皆さんが、いつの日にかまちづくりの主役となって活躍されるその日が来ることを楽しみに、市民の皆様とともに力を合わせて「サステナブル健康都市おおぶ」の歩みを進めていきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

議長（牧 絢花）

企画政策部長。

企画政策部長（新美光良）

私から、御質問の「大府市を住み続けられるまちにするために何をすべきか、何ができるかについて」の1点目及び3点目について、お答えいたします。

始めに、1点目の「道路整備や、電灯の設置要望などができる場をつくることは検討していただけか」についてですが、本市では、郵送で提出することのできる「市長への手紙」や市公式ウェブサイトから直接投稿できる「市長へのメール」により、市民の皆様から様々なご意見やご提案をいただいています。

いただいた手紙やメールについては、全て市長が判断し、市でできるものはすぐに対応し、市の所管以外のものについても、関係機関に連絡することにより、解決に向けた取組を進めています。

また、各課へ直接問い合わせのできるメールフォームも市公式ウェブサイトに用意しておりますので、中学生の皆さんも、是非、ご提案やご意見をお寄せください。

次に、3点目の「大府市の最近更新されていない街のPR動画を作るなど、大府市の公式ウェブサイトをより分かりやすく見やすいものに改善していく計画はあるか」についてですが、大府市を広くPRするため、市にゆかりのあるユーチューバーや女優を起用したプロモーション動画を作成してきました。

しかし、昨年度からは、プロモーション動画の制作を一時中止し、新型コロナウイルス感染症対策を最優先に、市長による市民へのメッセージ動画の配信をはじめ、ワクチン接種のご案内

内・見える化などに力を入れています。

市制50周年を記念する動画についても、市制50周年記念式典を1年延期したことにより、本年9月4日の市制50周年Plus1記念式典でお披露目することとしました。市公式YouTubeでも公開を予定していますので、是非ご覧いただきたいと思います。

市公式ウェブサイトの各ページについては、各課の職員ができる限り工夫して作成しており、スマートフォンやタブレットなどでも見やすいページづくりに努めています。

市公式ウェブサイトをさらに見やすく魅力あるページにするため、是非、中学生の皆さんの若い感性でご提案いただき、今後のページづくりに取り入れてまいりたいと考えていますので、よろしく願いいたします。

議長（牧 絢花）

産業振興部長。

産業振興部長（寺島晴彦）

私から御質問の「大府市を住み続けられるまちにするために何をすべきか、何ができるかについて」の2点目「身近にあると便利な商業施設の誘致はできないか」についてお答えいたします。

近年、高齢化の進行等に伴い、全国的に食料品等の日常の買い物に関して困難な状況に置かれている方が増加し、買い物しやすい環境整備の必要性は高まっています。

本市でも、昨年度実施した市民意識調査では、各調査項目を「重要度のポイント」で比較すると、「市内で買い物しやすい環境」は全体の5位と、市民にとって重要度が高い項目となっていますので、買い物支援に取り組む必要があると考えています。

商業施設の誘致についてですが、本市に商業施設を立地したいという民間事業者は複数ありますので、市民や事業者のニーズ等を踏まえ、商業施設が少ない地域に商業施設が立地できるよう、令和元年度に都市計画の見直しを行いました。現在、民間事業者や地域の方などと商業施設の立地に向けた調整を進めているところです。

また、高齢者等の買い物支援としては、商業施設の誘致のほかに、お店への移動手段を確保することと、商品を自宅に届けることが考えられます。

お店への移動手段を確保することについては、本市の循環バスである「ふれあいバス」の5コース全てを駅と食料品や日用品等を取り扱う商業施設を通るルートに設定し、買い物の交通手段として活用できるようにしています。

また、商品を自宅に届けることについては、食材の宅配サービス、移動販売、買い物代行など、本市でも複数の事業者がサービスを提供しています。本市ではそのような民間事業者のサービスを紹介する「大府市買い物支援ガイド」を作成し、高齢者を中心に配布しています。

高齢化、核家族化が進む中、買い物支援は今後、より必要性が高まると予想しています。現状を把握、分析した上で、行政ができること、民間事業者をお願いすること、そして地域の住民の皆さんが協力し合えることなどを整理し、本市がすべきことに取り組んでいきたいと思っております。

市民の皆さんからのご意見等に耳を傾け、皆さんと一緒にまちづくりに取り組んでいきますので、よろしく願いいたします。

議長（牧 絢花）

答弁が終わりました。

答弁に対する意見および感想はありませんか。大府中・平田有麗さん。

中学生代表（大府中・平田有麗）

答弁いただき、誠にありがとうございました。

はじめに、SDGsのテーマである「住み続けられる街」の基本的な考え方につきましては、「サステナブルなまち」という、昔から今、将来にも大府市が大切にしていきたいものや、将来の私たちに求めているものを明確にすることができました。将来、自分たちが担う役割について深く考えていくべきだと思いました。

次に、街灯及び市の公式サイトにつきましては、行政の皆さまが私たち市民の声を取り入れるために工夫を凝らし下さっていることや、現状に合わせて市のPRサイトを更新して下さっていると聞き、とても安心しました。特に、中学生が提案できる機会を作ろうということを考えていただいていると聞いたとき、「私たちでも大府市をより良くすることに協力できる」と嬉しくなりました。

最後に、商業施設の誘致については、大府市が、高齢化に伴い、新規の商業施設の立地、移動手段、民間企業のサービスの三つを主にサポートしていることが分かりました。日々進化する情報社会により新しい選択肢が増えた際も、行政の皆さまがサポートすることにより高齢者・核家族に優しい大府市になると思っています。

「自然環境と経済活動の調和」がとれ、「誰もが住みやすい」大府市でいられるよう、私たちも小さなことから意見を発信し、実行していこうと思います。

以上です。

議長（牧 絢花）

以上で、日程第5の大府中学校の代表者からの質問・提案を終了します。

続いて、日程第6、大府北中学校、名嶋日菜さんの質問・提案をお願いします。大府北・名嶋日菜さん。

中学生代表（大府北・名嶋日菜）

大府北中学校の名嶋日菜です。

私は、「紙資源を大切に。ごみ問題とペーパーレスの推進」の観点から質問します。

このテーマは、SDGs 17の目標の11番「住み続けられるまちづくりを」、15番の「陸の豊かさを守ろう」に該当する内容です。

近年ごみ問題とペーパーレス化はよく話題にのびります。環境問題の観点からみても大事なことだとは分かっているにもかかわらず推進されないのが現状だと感じています。市が実施した「ごみの組成調査」によると、燃えるごみの約1割が資源となる紙だそうです。この調査から市民の方々の中には分別の仕方が分からない人や分別の意識が低い人が多くいることが分かります。私自身も資源ごみと燃えるごみの区別が分からなくなることがあります。

また、現在大府市では、有難いことに小中学校にタブレットの導入をして頂きました。正直

なところ、まだまだ十分に使いこなせてはいませんが、こういったICT機器を上手く使い、学校からのお便りやアンケートなどのペーパーレス化の推進も図れるのではないかと考えます。

そこで、次の6点について、質問・提案をさせていただきます。

1点目は、今後、防災用のものだけでなく、市の活動報告などを「大府市メルマガ」で発信していく予定はありますか。大府市メルマガなら誰でも見られるので、市の事をもっと市民の方々に知ってもらえると思います。

2点目は、大府市の公式ウェブサイトやメルマガにごみの分別動画や一覧表を掲載するのはどうでしょうか。

3点目は、分別の意識付けの一環で、資源ごみとして紙ごみをだせたら、地域商品券に交換できる仕組みはどうでしょうか。地域商品券は「地域の方々が営んでいる商店で使える」というようにして地域活性化にも取り組むことができます。ペーパーレス化で削減したお金を商品券に回していくので、経済的にもよいと思います。またSNSでこれらの市の取組を配信し、日本全体の見本にしていくというのもよいかなと思います。

4点目は、市報やお便りなども紙で配付されています。大府市の公式ウェブサイトには、「広報おおぶ」が電子データ化されて掲載されていますが、この電子データ化された「広報おおぶ」を電子媒体として希望者に対して個々に配付する予定はありますか。紙だと紛失する、濡れてしまう、などと色々と不便なことが多いと感じます。

また、今後この取組をする場合、アンケートをとって紙配付を希望する人に必要な枚数だけ印刷するにすれば、経費削減にもなると考えます。さらに環境には再生紙の方がよいということで、再生紙の大府市割引というのを作り、再生紙利用を促進させていくというのもよいと思います。

5点目は、市役所内の会議についてです。市の幹部会議では会議の資料をペーパーレスで実施していることが分かりました。しかし、幹部会議以外の会議では、あまり実施されていないようですが、今後は他の会議でも幹部会議と同様にペーパーレスを進めていく予定があるのでしょうか。

最後に、6点目は、学校における電子化、ペーパーレス化を進めるためにも現在のタブレットパソコンがより使いやすくなるようにタブレットペンの配布やPower Pointなどの図示やメモがしやすいアプリの導入、勉強用アプリの追加などの検討はされているのでしょうか。より使いやすくなることで、プリント類の削減にもつながっていくと思います。

以上を私からの質問・提案とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

議長（牧 絢花）

答弁をお願いします。教育長。

教育長（宮島年夫）

私からは、御質問の「『紙資源を大切に。ごみ問題とペーパーレスの推進』について」に関しまして、「ICT教育とペーパーレスの推進について」、お答えします。

本市は、平成22年度に総務省から「フューチャースクール事業」、平成23年度に文部科学省から「学びのイノベーション事業」の指定を受け、東山小学校でICT教育の実証研究を行い

ました。その研究成果を踏まえて、ICTを活用した、わかりやすく、より理解を深める授業を行うことができるように、全小中学校にタブレット、電子黒板などのICT機器を導入するとともに、学校内に無線通信環境を整備し、他市町に先駆けて、ICT教育の環境整備を進めています。

また、機器整備のほかに、効果的な学習活動を実現するためのアプリの導入、ICT支援員の配置などを行い、学習環境の整備にも努め、ICT教育を進めています。

さらに、昨年度には、国全体で児童生徒に1人1台の端末の整備を進める「GIGAスクール構想」に基づき、本市では、本日皆さんが使用していますタブレットを、小学校4年生以上に1人1台配布いたしました。

このような環境を生かし、例えば、皆さんが授業で使用するプリントや、学校から御家庭にお渡しする文書などについても、紙に印刷するのではなく、電子化することで、ペーパーレスを推進できるものと考えています。

今後は、御提案いただいたように、皆さんがICTを活用した学習を行ううえで、ペーパーレスを推進できるような環境を整備し、持続可能なまちづくりの一助となるよう努めてまいりますので、よろしくお願いいたします。

議長（牧 絢花）

企画政策部長。

企画政策部長（新美光良）

私から御質問の「『紙資源を大切に。ごみ問題とペーパーレスの推進』について」の1点目及び4点目についてお答えいたします。

始めに、1点目の「市の活動報告などを『大府市メルマガ』で発信していく予定はあるか」についてですが、本市では、現在、防災情報や防犯情報などを配信する「安心・安全メルマガ」、各学校の行事情報や不審者情報などを配信する「学校メルマガ」、認知症高齢者の行方不明者捜索情報などを配信する「おおぶ・あったか見守りネットワーク」の3つのメルマガのほか、LINE、インスタグラム、ツイッター、フェイスブックなどのSNSを活用し、情報発信を行っています。

メルマガ、SNSなどはアプリによって、利用する年齢層や発信の機能などが異なることから、それぞれの特性を活かした情報発信が重要だと考えています。

ご質問の市の活動報告については、文章に加え、画像を添付したり、詳細な情報や動画などへのリンクを付けたりすることで、情報の受け手の理解度が増すと考えており、発信する情報に適したアプリを活用し、進めていきたいと考えています。皆さんも是非メルマガやSNSに登録していただき、本市の情報に関心を持っていただくとともに、発信者として、大府市の魅力のPRもお願いしたいと考えています。

また、皆さんの学校でもウェブサイトを中心に情報発信に努めていることと思いますが、市民の皆様は学校のことをより知ってもらうため、生徒の皆さんによる学校公式SNSを使った情報発信や市と連携した情報発信を検討してみたいかでしょうか。過去には大府東高校文芸部とのコラボにより広報おおぶでマンガでの記事を連載し、市民の皆様から大きな反響がありました。特色のある学校行事やエピソードなど、面白い情報がありましたら是非、一緒に発

信じていきましょう。

次に、4点目の「電子データ化された『広報おおぶ』を電子媒体として希望者に対して個々に配付する予定はあるか」についてですが、現在は、PDF化した広報おおぶを市公式ウェブサイトに掲載しており、スマートフォンなどでも取り出せるようにしています。今後は、LINEなどを活用することにより、プッシュ型で広報おおぶの発行をお知らせし、直接アクセスできるよう、検討していきたいと考えていますので、よろしくお願いいたします。

議長（牧 絢花）

市民協働部長。

市民協働部長（信田光隆）

私から御質問の「紙資源を大切に。ごみ問題とペーパーレスの推進」についての2点目及び3点目についてお答えいたします。

始めに、2点目の「大府市の公式ウェブサイトやメルマガにごみの分別動画や一覧表を掲載するのはどうか」についてですが、本市では、ごみや資源の出し方について取りまとめた冊子を、毎年、市内全戸に配布するとともに、転入手続きを行う市民課窓口でも配布しています。また、外国人の方にも分かるように、外国語版も用意しています。

また、ごみの分別一覧表に関しては、窓口や電話で問い合わせが多いものを、市公式ウェブサイトにおいて、「燃やせるごみ」、「燃やせないごみ」、「資源」、「市では収集できないもの」などを選択して検索できるようにしています。

市公式ウェブサイトやメルマガへごみの分別動画を掲載することは、情報を伝える方法の一つとして、とても有効な手段ですので、市民の皆さんが色々な方法で情報が取得できるよう、分かりやすい情報発信に努めていきます。

次に、3点目の「資源ごみとして紙ごみをだせたらポイントが付与される仕組みにし、一定数貯まると地域商品券に交換できる仕組みはどうか」についてですが、本市では、昭和56年から市内全域で資源回収を実施しています。

それぞれの地域で回収した資源の売却金に加えて、回収した資源の重量に応じて、市から資源回収を奨励するための報償金を交付し、ごみの減量及び資源の促進を図っています。

これらは、資源の収集を自治会の班や組などの単位で、地域の皆さんに協力していただく「市民協働」による手法で実施しています。

ごみの減量化を進める上で、紙を含めて資源になるものをごみとして捨てないということはとても大切なことです。そのための動機づけとして、地域活性化にも寄与するポイント制度は、経済的な効果も期待される手法と考えられますので、先進市の取組を参考にしながら、調査研究していきたいと考えていますので、よろしくお願いいたします。

議長（牧 絢花）

総務部長。

総務部長（玉村雅幸）

私から御質問の「紙資源を大切に。ごみ問題とペーパーレスの推進について」の5点目「幹

部会議以外の会議でもペーパーレスを進めていく予定があるか」について、お答えいたします。

本市では、平成30年2月に、市長をはじめ幹部職員にタブレットパソコンを導入し、幹部会議のペーパーレス化を開始しました。そして、1年後の平成31年2月には、市役所内に無線LAN環境を整備するとともに、職員が使用するノートパソコンをタブレットパソコンに変更しています。

タブレットパソコンの導入は、職員の仕事のやり方に大きな変革をもたらし、現在では、幹部会議の他にも、庁内で行われるさまざまな会議、研修及び打合せなどを、ペーパーレスで行っています。さらに、令和元年12月には、大府市議会議員にもタブレットパソコンを導入し、有効に活用されています。

紙資源の削減状況につきましては、市公式ウェブサイトにおいて、大府市庁内等環境保全率先行動計画「エコプランおおぶ」の達成状況の中で公表していますが、事務用タブレットパソコンを導入していない小中学校を除く、市の施設等のOA用紙類等購入量は、基準年度である平成26年度に対して、令和2年度は20パーセント近く削減することができています。これは、年間で150万枚以上のOA用紙が節約できているということであり、市役所職員の省資源活動に加え、ペーパーレス化の推進も紙資源の削減に一定の効果があったものと考えています。

このように、タブレットパソコンの活用は、紙資源の削減に貢献するとともに、働き方改革など、さまざまな効果も期待できることから、今後もタブレットパソコンを活用した取組を推進していきますので、よろしくお願いいたします。

議長（牧 絢花）

教育部長。

教育部長（鈴置繁雄）

私から、御質問の「『紙資源を大切に。ごみ問題とペーパーレスの推進』について」の6点目「学校でタブレットペンの配布、図示やメモがしやすいアプリの導入、勉強用アプリの追加などの検討はされているか」について、お答えいたします。

現在、皆さんが使用しているiPadは、指タッチで操作しやすく、また、キーボード付きケースをセットにしていますので、キーボード入力もできるものです。さらに、より使い易く、また、学習に効果的な機材となるよう、たくさんのアプリの中から必要なアプリをダウンロードできるようにしてありますので、学習機材としては十分な機能を持っています。

タブレットペンについてですが、本市では、キーボード入力に慣れていない小学校低学年用のiPadには、キーボードを付けていませんので、タブレット用のペンを用意しております。

タブレット画面に指タッチで文字を書く場合は、細かい動きや文字のはね、はらいが表現しづらいと理解しています。タブレットペンには、細かい動きや細かい文字などの入力が可能な製品もありますが、製品ごとで性能の他に使い心地の違いもあります。また、個人の好みによって、使うか使わないか、意見が分かれるようです。最近では、安価なものも多くなっていますので、皆さんが使っている鉛筆や消しゴムなどの文房具と同じ消耗品と考えています。

勉強用アプリの導入や追加についてですが、現在は、学習効果が高いもの、使いやすいものなどを、小中学校の先生からの依頼をもとに選定し、導入しています。

ICT教育の推進が、昨年度から全国的に加速したので、学習で使用できるアプリは、たく

さん増え続けています。そのため、非常に多くあるアプリの中から、皆さんが希望するものを具体的に把握する必要があります。皆さんの声を聞きながら、導入や追加すべきアプリの情報を収集し、選んでいきたいと考えています。

ICT学習の環境整備につきましては、皆さんからの意見を踏まえ、大府市教育委員会と小中学校の先生と一緒に、機器やアプリを使用する皆さんの目線で考え、進めていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

議長（牧 絢花）

答弁が終わりました。

答弁に対する意見および感想はありませんか。大府北・鈴木愛理さん。



中学生代表（大府北・鈴木愛理）

丁寧な答弁ありがとうございました。

私もウェブサイトで市の活動報告やPDF化した広報おおぶを見たことがあり、大府市の魅力をたくさん感じることができます。SNSによる情報発信については、初めて知りましたので、ぜひ利用してみたいと思います。

ごみの分別や資源ごみについては冊子でもウェブサイトでも簡単に見ることができることは非常にありがたいと思います。ICT教育とペーパーレスの推進については、私たちにとって最も関心が深いものであり、タブレットパソコンは今の私たちにとってなくてはならないものです。タブレットが導入されたことによって課題の提出や授業反省を全てタブレットの中で行うことができ、以前と比べて便利になっただけでなく、グループワークや学習発表などの授業がさらに楽しくなりました。併せてかみの削減で環境への配慮がされており、非常にありがたい取り組みだと思えます。

答弁をお聞きし、大府市は情報化が進んでいる都市であると感じました。そして今私たち中学生ができることは情報機器を正しく使用することと資源ごみの分別を心がけることだと思います。地域に貢献するため、私たちは、より一層努力をしていきますので、今後もよろしくお願いいたします。

以上です。

議長（牧 絢花）

以上で、日程第6の大府北中学校の代表者からの質問・提案を終了します。

日程表に従い、ここで、休憩をとりたいと思います。

これまでの答弁を踏まえ、共同宣言の内容について、中学生代表者で協議を行う時間を設けます。ご異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

異議なしと認めます。

中学生は、「全員協議会室」へ移動してください。

市長さん、幹部職員の皆さんは、休憩としていただき、再開は午後0時とします。

それでは、休憩といたします。

休憩 午前11時25分

再開 午後0時00分

議長（牧 絢花）

それでは、議事を再開します。

日程第7、「大府市中学生サミット共同宣言」の発表を行います。

先ほどの休憩中に、中学生代表者で協議した結果、共同宣言を原案どおり決定し、宣言文に代表者が署名しました。

ここで、大府市中学生サミット共同宣言を皆さんに発表いたします。

なお、市長さんには、共同宣言の趣旨にご賛同いただくため、この場に同席をいただいております。私たちの決意を受け止めていただき、私たちが実践する取組を応援していただきたいと思っております。

それでは、代表者から、大府市中学生サミット共同宣言の発表をお願いします。大府南・竹内晴香さん。大府西・小島圭人さん。

中学生代表（大府南・竹内晴香）（大府西・小島圭人）

私たち大府市内4中学校の生徒会役員は、市制50周年P l u s 1 記念事業として企画された「中学生サミット」に参加することができ、SDG s について学んだり、大府市の取組を確認したりして、本日を迎えることができました。

SDG s の研修では、日本大学の田中賢教授から、目的を達成するための手法の一つである、「バックキャストイング」について学びました。この「バックキャストイング」とは、「未来のあるべき姿」を描き、「現在の状況とのギャップ・現在の問題点」を整理し、「問題点を解決するために皆でできること」を考え、「具体的な行動方針」に沿って取り組むといった手法であることを教えていただきました。そして、持続可能な社会を実現するためには、「夢をしっかりと持ち、その夢に到達するためにどうしたら良いかを考える」ことが大切であると、私たちに示していただきました。

私たちにとって、今回の「中学生サミット」は、大府市、日本、地球の問題をあらためて見つめ、その問題を解決するために何ができるかを考える機会になりました。そして、本日の大府市長はじめ、市の方々からの答弁で、大府市は未来のことを考え、既に多くの取組を行っていることを確認することができました。

日本では、全国的に少子高齢化が進んでいて、若い世代への期待が大きくなっています。また、2022年4月1日には、成年年齢が20歳から18歳へと引き下げられ、今までよりも2年早く社会人としての責任と義務を負うこととなります。これも私たちの世代に対する期待だと思っております。

大府市が町から市になって51年が経過した今、この大府市はとても住みやすいまちだと感じ



ていますが、さらに住みやすい大府市にすることが、次の世代を担う私たちに期待されていると分かりました。そして、そうした期待に応え、実現していくためには、その基盤として次のことが重要であると気づくことができました。

地域、市、日本、地球といった様々な視点から、その時代に起こっていることや問題に目を向けること。私たち一人ひとりが「何ができるか」を考えること。一人ひとりの個性や特性など尊重し、問題解決に向けて協力して取り組むこと。

以上のことを踏まえ、私たち中学生の共同宣言を発表します。

中学生代表（大府西・小島圭人）

大府市中学生サミット共同宣言。

私たちは、大府市全ての中学生を代表して、市の掲げる「健康づくり都市宣言」と「平和都市宣言」、そして人類が抱える課題の克服を目指す17の持続可能な開発目標SDGsに基づき、「いつまでも 住み続けたい サステナブル健康都市おおぶ」を実現するために、私たちにできる実践を決意として宣言します。

宣言1. 住みやすいまちづくりに励みます。

- (1) 地域の行事やボランティア活動に積極的に参加し、地域の発展と活性化に努めます。
- (2) 自ら進んであいさつをし、心温まる地域の和を広げます。
- (3) 自身の健康に関心を持ち、バランスのとれた食事と日頃の運動を心がけ、健康で丈夫な体づくりに努めます。

宣言2. 地域の課題に関心を持ち、環境への配慮に努めます。

- (1) 災害・交通・生活など地域の課題に着目し、改善に向けた意見の発信に努めます。
- (2) 学校や家庭での節電、徒歩や自転車での移動、地産地消を心がけます。
- (3) マイバッグ・マイボトルの所持やペーパーレス化を心がけ、3R活動の推進に努めます。

宣言3. 一人ひとりの個性を尊重し、目的達成に向かって協働できるパートナーシップを築きます。

- (1) 互いに認め合い、いじめや差別をしない・させない・見逃さない生活に努めます。
- (2) 家族の一員である自覚を持ち、心安らぐ温かな家庭を築きます。
- (3) 仲間・家族・地域の人々との協働に努め、一人ひとりにできることを考え実行していきます。

以上のことを実践の柱とし、人々が生き生きと暮らす50年後の大府市の姿に夢と希望を抱いて、大府市4中学校が協力して行動していくことを誓います。

令和3年8月25日 大府市4中学校生徒会役員一同。

(拍手あり)

議長（牧 絢花）

ありがとうございました。

続きまして、共同宣言について、ご賛同いただくため、市を代表して市長さんに宣言文への署名をお願いします。市長さんは、質問席へ移動してご着席ください。

(市長、質問席に着席)

それでは、宣言文への署名をお願いします。

(市長、宣言文に署名)

それでは、市長さんから署名いただきました宣言文を中学生代表者にお渡しいただきしたいと思います。市長さんは、質問席の前に移動してください。

それでは、中学生代表者へ宣言文をお渡しください。

(拍手あり)

ありがとうございました。席にお戻りください。

以上で、本日の日程は全て終了しました。円滑な議事進行に御協力いただき、ありがとうございました。

閉会にあたり、教育長さんから、ご挨拶をいただきます。教育長。



教育長（宮島年夫）

全日程終了し、やり終えた今の心境はいかがですか。充実した感じが返ってきましたね。それぞれに思いがあるかと思いますが、この日が皆さんにとって、メモリアルな、よかったなと思える日であってくれたらと心から願っています。私はさすがだという思いで見させていただきました。中学生のまっすぐで、清々しい姿から、いっぱいエネルギーをいただいた思いがあります。さすが4中学校の生徒会を代表する26名の皆さんだと感心しました。お疲れ様でした。心地いい疲れですよ。

SDGsについて、今回改めて皆さん勉強されて、その中で、やはりこの街も、そして、大きく言うと地球も、人類も、幾つもの大きな深い課題を抱えているということを改めて知ることができたかと思いますが、私は今この時代に生まれた皆さんが、この課題の克服に、それが余りに重圧になって、責任感とか、義務感とかに苛まれませんようにと祈っています。どこまでも皆さんは大らかに、この世に生を受けた御自身の人生を豊かなものにするんだと、歩み続けていってください。そして、自分が豊かになるためには、自分の周りの人も豊かに、自分が暮らすこの街も豊かに、そして、広くこの地球を豊かに、そういう思いで引き続き社会を見つめ、向き合っていってもらえたらと心の底から願っています。いずれにしても、まだまだ今から



らの自分探しの旅を楽しみながら、活躍してってください。期待しています。楽しみにしています。

最後になりましたが、今日御出席いただいた関係の方々、生徒たちにSDGsの学習をしてくださった日本大学の田中賢先生、それから御支援いただいた保護者の皆様、そしてそれぞれ学校関係者の皆さん、本日は、誠にありがとうございました。また、教育委員会の関係者の方々にも全員御出席いただきました。そして、何よりも皆さん感じていただいたと思いますが、この生徒たちのエネルギーに負けず、

煽られたところもありますけど、市長さん始め市幹部の皆さんが、定例の議会と同様に真剣に答弁をしてくれました。市長さん始め市幹部の方々にも、心から御礼を申し上げます。本日は誠にありがとうございました。お疲れ様でした。

議長（牧 絢花）

ありがとうございました。

終わりに、中学生全員で、これまで御協力をいただいた全ての皆さんに御礼を申し上げたいと思います。

中学生起立。ありがとうございました。

（中学生、起立して一礼）

（拍手あり）

皆さん、ご着席ください。

これをもちまして、「市制50周年Plus1記念事業大府市中学生サミット」を閉会します。

皆さん、気をつけてお帰りください。お疲れ様でした。

閉会 午後0時17分





市制 50 周年 Plus I 記念事業
大府市中学生サミット会議録
令和 3 年 9 月 発行
編集発行 大府市教育委員会